

航空機の部品製造で台湾航空産業の発展を後押しする 中興電工機械

中興電工機械は2012年に航空機部品事業に参入し、現在は航空機のエンジン部品や主翼部分の部品を製造している。厳しい品質基準が求められる航空機の部品製造において、徹底した品質管理体制を築くことで順調に事業を拡大している。今回は、中興電工機械股份有限公司の傅建堯製造事業処処長を訪ね、航空機部品事業に進出したきっかけと今後の事業展望についてお話を伺った。



中興電工機械(股)有限公司 傅建堯製造事業処処長

- 航空機部品製造業に進出したきっかけ

当社は1956年、台湾の経済がそれまでの農業を中心とした経済から工業を中心とした経済へと移行するなかで、主に電力会社向けに重電設備を手がける会社としてスタートしました。台湾の経済が順調に発展していくなかで、事業の多角化を図るようになり、現在では、電力事業、CNC事業、新エネルギー事業、システムインテグレーション事業、駐車場運営管理事業を手がけています。

電力事業は、かつて日本の大手重電メーカーから技術供与を受けたこともあり、創業以来、台湾の電力会社を支える重要なパートナーであり続けています。また全事業の中で最も売上が大きい事業となっています。

CNC事業は、主に光電子産業と航空・半導体産業向けに工作機械関連のトータルソリューションを提供しています。

新エネルギー事業は、2008年より注力している事業であり、主に燃料電池などの製品を扱っています。今年6月には、日本の豊田通商と組み、メタノール改質型燃料電池を日本で販売することが決まりました。

システムインテグレーション事業では、台北MRTの電

機システムの構築などを行ってきました。

駐車場運営管理事業は、嘟嘟房という名称で事業を展開しており、主に空港や台湾新幹線周辺用地の駐車場を運営管理しています。

航空機部品事業に本格的に参入したのは2012年です。航空機部品の製造事業に参入した理由はふたつあります。ひとつは、自動車や家電といったほかの部品と比較して航空機部品は製品のライフサイクルが少なくとも10年以上と長いこと。もうひとつは、航空機部品は付加価値が非常に高く、また求められる製造技術が高いことから、価格競争に陥りにくいということがあげられます。航空機部品はその他の製品よりも要求される品質水準が高いこともあり、参入した当初は漢翔航空工業のサポートのもとで事業を行っていました。製品の品質を確保するために、ISO、NADCAP、AIDC S200 Aerospaceなどの外部認証の取得につとめたほか、グループ内の品質管理委員会を活用することで、徹底した品質管理システムを実現し、競争力を確保しています。5年前にはじめた航空機部品の製造事業ですが、現在は航空機部品専用の生産ラインと製造設備を備えるまでに至っています。航空機部品のう

台湾トップ企業

ち、当社はエンジン部品と主翼部分の部品製造を行っており、漢飛航空工業と長榮航宇などのメーカーに部品を提供しています。

- 航空機産業について

ある調査では今後10年間で新たに60,000機以上の商用機が生産されるという結果がでており、今後しばらくは世界全体の航空機産業も順調に発展していくと考えています。単純計算すると最低でも120,000台以上のエンジンの需要が見込めることとなりますので、当社としてもできるだけ多くの注文を取り付けるようにしたいです。台湾国内に目を転じると、2016年に成立した蔡政権は重要政策として「防衛産業の国産化」という方針を掲げており、周辺機械や材料、電機をはじめとする防衛関連産業の内需の発展が期待されています。当社も漢翔航空工業と一緒に設計や製造について意見交換を行っています。

- 航空機部材を手がける上で苦労していること

航空機部材を手がける上で苦労していることは部材と人材の確保です。部材については、昨年から今年半ばまで部品の需要に対して供給が追いつかず、生産が逼迫している状況が続いていました。厳しい品質基準が求められる航空機部品の製造事業において、簡単には他社生産に切り替えることができないことが関係しています。もうひとつは、自社に限った話ではないかもしれませんが、専門人材が慢性的に不足しているということです。以前は、専門学校を卒業した技術力のある人材が多かったのですが、最近ではそうした人材が少なくなってきました。当社としては政府機関や大学と提携することで、人材育成や自社への取り込みにつとめています。

- 今後の事業展望について

今後5年は漢飛航空工業と長榮航宇との提携を通じ

て自社の技術力の向上や生産量の拡大を目指したいと思っています。また単なる部品の販売に終始するのではなく、製品ユニットとしても航空機部品を提供していきたいと考えています。

- ありがとうございました。

中興電工機械(股)有限公司の基本データ

会社名	中興電工機械股份有限公司 (英語名: CHUNG-HSIN ELECTRIC & MACHINERY MFG. CORP.)
代表者	江義福(董事長)
設立	1956年
資本金	75億台湾元
事業内容	電力事業、CNC事業、 新エネルギー事業、 システムインテグレーション事業、 駐車場管理事業

注)2017年12月の情報による
出所)公開資料及びヒアリングよりNRI整理